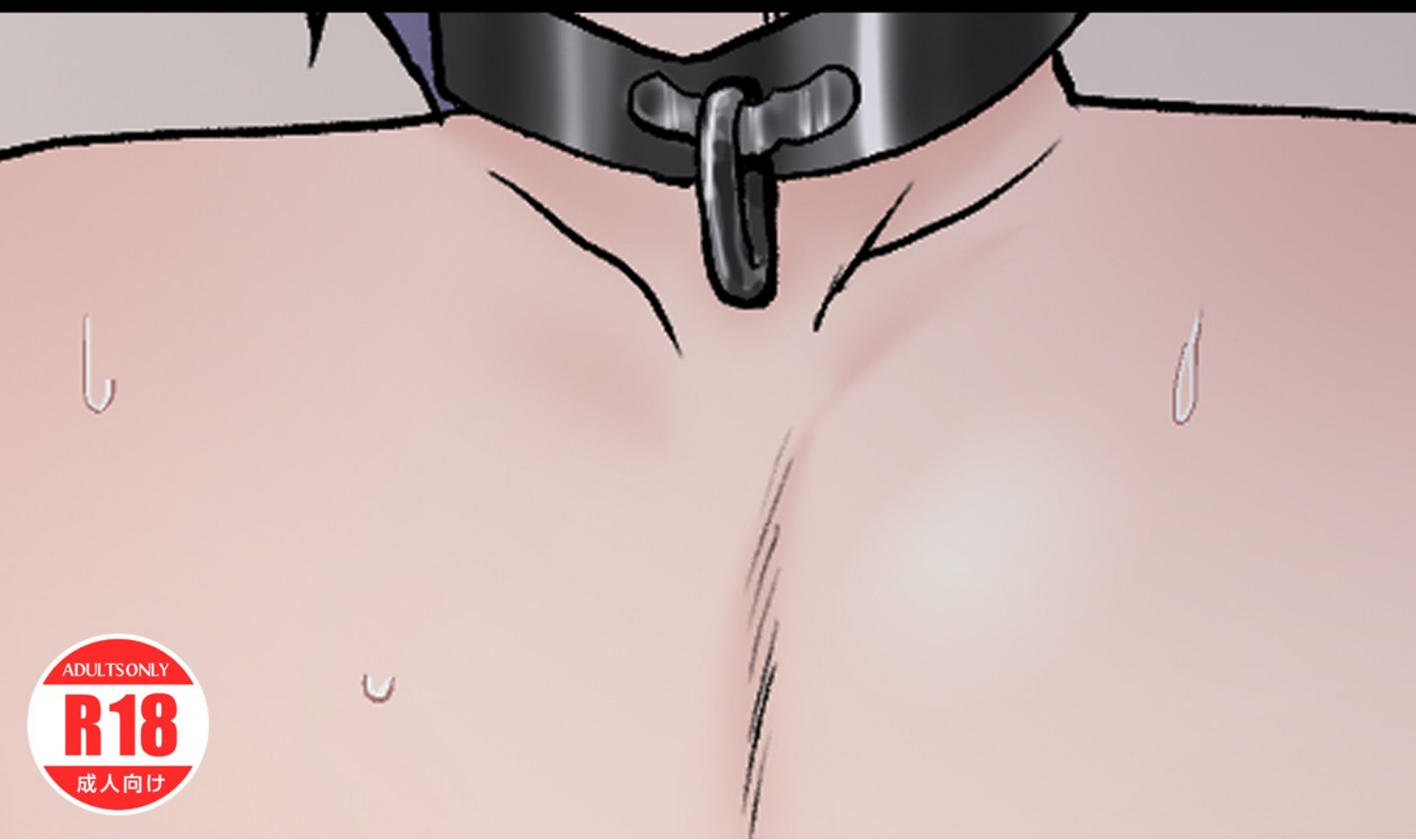




nocturne





The boy is no one
その少年は誰でもない

That place is nowhere
その場所はどこでもない

That time is not always
その時間は何時でもない

















それは何時だったか。

昼間とは全く空気が変わり、人気もない。明るいうちは家族連れや犬の散歩などが見かけられたであろうその場所は、公共の場所でもある。

そこに、まだ幼さの残る少年を連れた30代半ばあたりだろうか、大柄な男がいた。

手入れのあまりされていない古びた街灯の明かりではよく見えないが少年には似つかわしくない、首輪と手枷。

ただ少年はそれを受け入れているようでもある。その証拠に、少年の身体はほんのり上気し、幼いペニスは勃起したままである。

首輪から伸びたリードを持つ男はなにやら少年に囁いている。少年は僅かな抵抗と期待、そして羞恥心を浮かべながらも、従う。

命令された少年は、男の前に跪く。
男の、大きく硬くそそり立つペニスに鼻を近づけ、舌を出す。それは愛おしそうにさえ見える。

小さな口にほおぼる。
人気のない公園。暗い影の中、粘着質な音と少年の息遣いだけが小さく響く。

少年は知っている。
これから何をされるのか。
ここで何が起こるのか。
自分が何を求めているのか。

リードを持つ男の手に力が入り、少年の首輪が引かれる。少年は苦しさの中に感じたことのない興奮を感じる。

ある夜の、出来事である。



nocturne

20201006

mayura yuki

Twitter@darkcream_yuki

この作品に登場する人物、場所、行為は空想上の物です。
作者の創作物であり、犯罪を助長・誘発する目的は一切ありません。
この作品の著作権は作者にあり、いかなる場合においても転売・転載を禁じます。

The characters, places, and actions that appear in this work are fantasy.
It is a creative work of the author and has no purpose of promoting or inducing crime.
The copyright of this work belongs to the author, and resale or reprinting is prohibited under any circumstances.